

夏山八幡宮「火祭り」 ―厄除け・病氣予防―

普段は静かで穏やかな、夏山八幡宮。しかし、旧暦九月九日に近い土曜日（昨年は一〇月二四日）の火祭りの夜は、普段の静けさから一変し、夜空に勢いよく燃え上がる炎と歓声で境内は一斉に盛り上がります。

火祭りは、夏山町五集落のうち、柿平と平針が一年交替で担当して、行っています。祭りの中心は、ソダ山と呼ばれる生木の山に火がつき、面を被った鬼と鬼の親あるいはババ（師匠的な役割を果たす）が様々な所作を行う場面にあります。この時、鬼が上手く所作事ができないと、周りの参詣者が「ボケ、ボケ」「バカ鬼、バカ鬼」と鬼を囃します。すると鬼がソダ山から燃えた木を持ち出すので、参詣者は歓声を上げながら逃げ回り、祭りは最高潮を迎えます。鬼が振り回す燃えた木に打たれると厄除けとなり、その年は病気にかからないと言い伝えられています。参詣者も「打たれに行く」と言って祭りに参加するそうです。

火祭りの準備は当日の一二時三〇分頃から行われます。境内周囲の森から生木

を切り出しソダ山を作りま

す。拜殿では注連縄や鬼の装束として身

に付ける作り物などを、一昨年の物を見本にして作成します。鬼や



鬼が参詣者を追い回す

ババ役を務める者は太夫と呼ばれ、白装束に身を包み、水垢離し潔斎を行います。その後、中殿にて御神火となる火起し（火きり神事）を行います。一六時頃には採火して、ソダ山なども完成すると、準備が整います。一七時に楽士が奏でる雅楽で厳かに祭式が行われ、その後、神降ろし（平針担当の時のみ行う）、ソダ山点火、所作事が順に行われ、二〇時頃には終了します。

厄除けや病氣予防の願いが込められた夏山八幡宮「火祭り」、その絶え間なく燃え盛る火が、親から子へ、そして孫へと絶えず受け継がれて行くことを願ってやみません。

図書館交流プラザ岡崎むかし館主任専門員

野本 欽也

口腔乾燥症（ドライマウス）

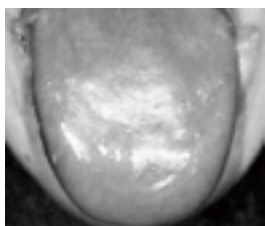
近年、口が渇くという症状を訴える患者が増えています。原因はいろいろ考えられますが、加齢、ストレス、自己免疫疾患、放射線治療による唾液腺機能の低下、抑うつなどの精神・神経性によるもの、糖尿病や腎障害などの全身疾患によるものなどが挙げられます。また、高血圧の薬、抗不安薬、抗アレルギー薬など400種類以上の薬が口腔乾燥を引き起こすことも指摘されています。近年の超高齢化と増大する社会的ストレスにより、今後ますます増加するものと予想されます。

口腔乾燥症は、その症状からドライマウスともいわれ、男女比は約1対15と女性に多く、特に更年期前後の女性が多く発症します。症状は口が乾く以外に、口の中がネバネバする、ヒリヒリする、味覚がおかしい、口臭がある、パンなどの乾いた食品が食べにくいなどが現れます。また、虫歯や歯

周病になりやすく、真菌（カビ）

による口腔カンジダ症にかかることがありますが（写真参照）。特に、高齢者や義歯を装着しているかたは、長期間症状を放置することで、徐々に悪化します。

治療を行うには、まず原因を突き止めることが大事です。市民病院では歯科口腔外科と他科とが連携して治療を進めています。



口腔乾燥による口腔カンジダ症
舌乳頭が萎縮して赤くなり、両側の口角にびらん（ただれ）が認められる。口が乾き痛みを伴うため摂食、食べ物飲み下す嚥下機能に影響が出ている。

岡崎市民病院 歯科口腔外科

統括部長 長尾 徹

市民病院を受診する際は「かかりつけ医」の紹介状をお持ちください。